

2025 法語カレンダーについて

令和7年1月14日

今年のカレンダーのテーマは、昨年につき「宗祖親鸞聖人に会う」です。
今年、立教開宗800年の記念の年となります。浄土真宗のみ教えと立教開宗の喜びに、先達のお言葉を通して、あらためて出遇っていただきたいとの願いから、法語は選定されました。

表紙 宗教とは生死を貫くまこと一つの教え 中西智海

親鸞聖人はお浄土に行きっぱなしではない、還って来ると言われた。還るということは、この人生やこの世を捨てられないということ。目覚めさせて翻して、真実のさとり世界にまで高めてゆく命のありがたさを教えてくださった。

1月: いつでも、どこでも、誰でもたすける行、それは念仏 竹中智秀

この世で阿弥陀仏の本願に出会い、命終のその時に往生し、覚りの仏さまと成られたのがご先祖さま方でした。そして大悲心を起こし、「いつでも、どこでも、誰でも、たすける行」(念仏)となって私を西方浄土へ誘い続けている。

2月: 「名号」は私たちの地獄に響く、阿弥陀のいのち 高史明

自力(自分中心の世界)に固執して人間が暗闇を作り続けることの罪業の深さ、そしてそれに対する阿弥陀仏による絶対他力の救済。生かされているいのち。

3月: 真の智慧はそのまま大悲でもある 上山大峻

浄土からの智慧の念仏によび覚まされ、大悲のお心を信知させられたとき、絶対的に愚かなる私が、真実なる大悲の浄土を慕う私に育てられていく。

4月: この私のいのちにいつも如来のいのちが通い続けている 藤澤量正

人生は順境の時も、逆に孤独と苦悩の中に身をさらされても、仏さまはこの私から決して離れることなく、大悲の中に包まれていることを知らされたなら、いつでもどこでも、どんな時でも、よろこびの見える人生が開かれる。

5月: 仏さまというのは向こうから私のところへいつも来ているはたらきです 近田昭夫

親鸞聖人は阿弥陀さまの救いを磁石に喩え、磁石が鉄くぎを吸いつけるようなものだと説明されている。本願の因である私を吸いつけてくれる。

6月: 何に遇ったのか、それによってその人生は決定する 梯實圓

本眼力に遇ったものはむなしく過ぎるものはいない、必ず救われる。遇いがたいものに遇い、聞きがたい教えに出遇えたという感動。

7月: 老いや病や死が人生を輝かせてくださる 湯浅成幸

私たちにとっては、老いも病も死も、除かれるもの、不幸なことではなく、老病死によって生の豊かな営みを教えられる。「この病気を病気として受けとめることが、ばばの毎日の生きる道です」

8月: 仏様にあいたい、これにまさる深い願いが人間にあるでしょうか 寺川俊昭

シルクロードの厳しい環境を超え、仏教を伝えようとした仏教者たちの姿を想像すると胸が熱くなる。ふと動いた「仏さまにあいたい」という切ない心、それが聞法の志となって私を歩ませる。

9月: 大悲のなかに、大悲のなかに、確かにこの私がいます 外松太恵子

他者の立場から他者をおもふことができるのは、仏法に出遇えたから。この救いようのない私を阿弥陀さまはじっとみてくださっています。その眼差しのなかに、確かにこの私がいます。

10月: 塵が塵のままに照らされて、ひかり輝いている 西元宗助

行き詰まり苦悩する自身を浮遊する塵と重ね、その塵を照らし輝かせる一条の朝日を阿弥陀さまの光明ととらえた。音もなく浮遊する塵のような私たちを輝かせ、お念仏を響かせてくださる阿弥陀さまが、いのちの行きさきを浄土と約束してくださる。

11月: 浄土へ生まれたいというのは、浄土へ生まれよという如来の命令なんだ 仲野良俊

都合のいいこと（生）が好きで、都合の悪いこと（死）が嫌いなのが私たちの有りよう。その私はお浄土と真反対の生き方しかできないが、そのまま阿弥陀さまのおはたらきの中、「かえっておいで」という、頼もしくやさしいお喚び声だったのだと知らされる。

12月: 確かなものは今もはたらいてる如来の本願力 村上速水

確かなものは私の希望や思いではない。不確かなあなたをかならず救う仏がここにいます。だから安心してこの仏にまかせなさい。なもあみだぶつ、なもあみだぶつ・・・